

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



新春の大教会神殿に飾られている松竹梅の鉢

小庭を象り、中に燈籠・鶴・亀を置き南天・笹・福寿草などを配植した縁起物の寄せ植えである。(1月4日 撮影)

さあ！おたすけ 祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード 集計：82,871枚

平成27年11月21日～12月20日

累計：1,530,890枚

一万人のおぢばがえり

集計：305人

累計：7,331人

平成27年 1月1日～12月20日

立教179年
1月号

立教百七十九年

明けましておめでとうございませす

昨年は年祭活動三年目仕上げの年として、心定め完遂を目指し一人でも多くの人をおぢばへ連れ帰ろうと、実動

に邁進させて頂きましたところ、10月25日の芦津眞明組合同での別席・ひのきしん団参には1300名を越える帰

参者を御守護頂く事が出来ました。誠に御苦労様でした。



本年、いよいよ教祖百三十年祭です。おぢばを多くの人でにぎやかにし、教祖にお喜び頂きましょう。そして年頭に当り真柱様より「教祖年祭はよふきぐらいへ向つて、心の成人を進める為の節目であり一里塚であります。通過点なので、これまでの成人の歩みへ活かして行かなければならない。」とお聞かせ下さいました。

今年一年を年祭の年としてしっかりと教祖にお喜び頂ける一年とさせて頂きましよう。その為にも、明治二十年、25年先の定命を縮めてまでお急ぎ込み下された「おつとめ」の充実と「さづけ」の取次にこだわって、成人の歩みを進めて行きたいと思ひます。

どうぞ、皆、一手一つの心で、おつとめ下さいますよう、お願い申し上げます。

笠岡大教会長
上原理一

立教179年 各部会の抱負 及び 年間行事予定

教祖百三十年祭三年千日 年祭活動推進委員会

笠岡大教会では、教祖百三十年祭へ向かう三年千日年祭活動を、**さあ、おたすけ！ 祈る動く、つなぐ**をスローガンに努め励まして頂きました。

教祖百三十年祭お打ち出し前年の、立教百七十五年秋季大祭において真柱様より、「この教祖のお心に應えるために、全てのようにぼくが仕切ってお

すけに励もうということでありませす。仕切つてということは、教祖の年祭を目標に、普段の時よりもそのことを強く意識して、実行を心がける時ということでありませす。」とお言葉をいただきました。推進委員会では全てのようにぼく信者が、年祭活動を強く意識し実行できるようにと、話し合いを重ね、特別な目標を掲げるのではなく、日常の些細なことがおたすけへと繋げられるよう、笠岡独自の「成人目標」を作成し、具体的な取り組みを実践して参りました。

本年はいよいよ教祖百三十年祭を迎えさせて頂きませす。真柱様は新年の御挨拶の中で、「三年千日にわたる年祭活動で培った力を、普段の活動の充実につなげていきたいと思ひませす。」とお述べ下さつています。年祭当日に向かって残された日数を最後まで年祭活動を実践し、更には、年祭後も今までの積み重ねを継続して努めさせて頂きたいと思ひませす。

教祖百三十年祭をもって、年祭活動推進委員会の動きは一つの区切りを迎えます。

三年間誠に有難うございませす。尚、三年間取り組んで参りました「お

たすけ・お願いカード」は、一月二十一日の大教会春季大祭をもって、大教会へと運んで頂く形は一応の区切りとさせていただきます。今後は、各教会毎に継続して取り組んで頂きたいと思いません。その際、お願いカードの取り扱いには各教会が責任を持って処分・保管をお願いいたします。

また、一歩一歩の成人を目指して、三年間積み重ねて参りました「成人目標」も、今後更に継続し充実した活動へとつなげていく事を念頭に、新たな「成人目標」を作成致したいと考えております。

今年一年、教祖百三十年祭の年として、更なる普段の活動の充実を目指し歩ませて頂きましょう。

布教部

教祖百三十年祭三年千日祭活動は、一月二十六日をもって区切りとなりますが、三年間積み重ねて参りました活動を、更に継続・充実を目指す上から、布教部として

- 笠岡をいがけデーの推進
- 若人のつどい
- おちばがえり団参

を活動の柱に、布教部が旗振り役として活動を推進させていただきます。

●笠岡をいがけデーについて

過去三年間毎月23日を「笠岡をいがけデー」として、各教会単位で進めて参りました「にをいがけ活動」でありませんが、これを継続しつつ、今後は各ブロック単位で活動を進めさせていただきます。活動内容は各ブロック布教部員を中心に計画実施致します。

●若人のつどいについて

この度、布教部に育成室を立ち上げ、各年代層の育成を図っていきたく思います。その上から、年祭活動推進委員会として三年間実施して参りました「若人のつどい」を、布教部管轄として、今後も引き続き開催させていただきます。

●おちばがえり団参について

今年も笠岡大教会としてのおちばがえりを実施させていただきます。例年は別席・伏せ込みひのきしん団参として実施させて頂いておりますが、本年は特に初帰参者をおちばへお連れできるよう働きかけたいと思いま

す。「学生おちばがえり大会」や「こどもおちばがえり」も絶好の機会です。全ての教会で初帰参者を御守護いただけるよう、教会に繋がる一人が一人の初帰参者を目指して努めさせていただきますと思います。

連絡して頂くようお願い致します。

◎年間行事

1. 立教179年教会長講習会

三年千日祭活動を教会長として歩ませて頂いたお互い。年祭活動への取り組みを振り返ると共に、更に継続した活動の充実を目指して、練り合いを中心に進めさせていただきます。

日 時 11月23日(水・祝)
全ての教会で初帰参者の御守護をいただきましよう

2. 笠岡おちばがえり団参

日 時 2月25日15時30分 受付
16時00分 開講式

日 時 4月29日(月・祝)
※参加への呼びかけを(特に、教会と離れた地域に住まうよふぼくへも、所属教会から積極的な声掛けをお願いいたします。)

3. 立教179年全教一斉のきしんデー

日 時 2月26日 本部祭典参拝後解散

日 時 9月28日(水)
全教会長路傍講演の日

4. 立教179年全教一斉にをいがけデー

日 時 25・26日の昼食は含まれません。
*25・26日の昼食は含まれません。

日 時 9月29日(木)・30日(金)
全よふぼく実動日

◎おちばがえり団参について

今年も笠岡大教会としてのおちばがえりを実施させていただきます。例年は別席・伏せ込みひのきしん団参として実施させて頂いておりますが、本年は特に初帰参者をおちばへお連れできるよう働きかけたいと思いま

日 時 9月29日(木)・30日(金)
全よふぼく実動日

◎おちばがえり団参

今年も笠岡大教会としてのおちばがえりを実施させていただきます。例年は別席・伏せ込みひのきしん団参として実施させて頂いておりますが、本年は特に初帰参者をおちばへお連れできるよう働きかけたいと思いま

日 時 9月29日(木)・30日(金)
全よふぼく実動日

海外部

海外部の動きは海外移住者・海外の現地人よふぼく・信者へ、教内の動き・笠岡の動きを伝えて行く文書伝道を続けて行く事と、来日される外国の人達への布教活動・日本での海外伝道の意識を持った人達を育てていくことにあると思います。

いよいよ今年は教祖年祭の年です。

昨年一年をかけて年祭帰参の呼びかけの目的で、日本にあるブラジルの布教所・台湾・タンザニア・米国を海外部員で巡回させて頂きました。仕上げとしてそれらの人々に1人でも多くおちばに帰って来て頂けるよう最後の声掛けをすると共に、帰参人数とスケジュールを把握し、帰参された人達と共に教祖の年祭を迎えられた喜びを分かち合いたいと思います。また今年一年を通して海外から帰って来られる人達のお世話どりをさせて頂きます。

例年の英語講習会・11月の月次祭典講話に代えての海外伝道講習会、また広島平和公園での外国語パンフレット配布などの行事も、未来に繋がる海外伝道の意識を高めるものであります。今年には新たに、英語勉強会を持ち、

その意識を高めて行く人材育成が出来ればと思います。そして、今年もタンザニアの国へ8年目のおたすけ活動も続けていきます。将来現地の人達が中心となって、つとめ・きづけ・教えを通して喜びを共有できる場を持つてる事を目標に展望を持って動かさせて頂きます。

年間行事

1. **英文パンフレットを配布**(3月と11月に広島県の観光地へ行きます)：海外伝道に携わらせて頂く理作りをさせて頂こうと思うものです。
2. **タンザニアおたすけ訪問**(今年は5月末から二週間の予定です)
3. **英語講習会**(8月7・8日に開催)：昭和43年に始まったこの講習会は今年で72回目を数えます。毎年、海外のネイティブスピーカーをゲストとしてお呼びし、参加者と直接話したり、海外の思いを聞かせて貰います。
4. **海外伝道講習会**(11月21日の月次祭に合わせて)：外部講師をお呼びし、海外伝道に携わる話を聞かせて頂き、日々の信仰生活のヒントにして頂きたいと思えます。

育成部

5. **英語勉強会**(月一回開催予定です)：海外が、まだ日程は未定です)：海外布教の一助になればと思います。

親神の懐ろであるこの世界は、心通りの守護によってお連れ通りを頂いている世界である。身上病むも、事情悩むも、本来皆めいめいの胸次第心次第のお与えである。人間は、誰も病気になることを欲している者はない。事情のもつれで悩み苦しむことを願っている者はない。しかし、日常生活の中にあつて、めいめいが、知らず識らずに身上事情の種になるような心の使い方をしているならば、そこに写し出されてくる姿は、己れの思いとは全く異なつた切なみ悩む姿として見せられても、致し方のないところである。

そこで運命の切り替えをする方法として、よふぼく勉強会があるのです。今年も内容が豊富です。「身の内切なみ病むも心一つ。難儀するも心一つ。よう聞けば早々一つ治まる」(M28・5・12)。教祖百二十年祭の年、明るい踏み出しをしましょう。

今年も「よふぼく勉強会」にふるって参加しましょう。

時間は、祭典後、午後1時15分から2時まで、45分の勉強会です。是非、祭典の後の45分間の勉強会に参加しましょう。 育成部長 吉岡 壽

よふぼく勉強会(平成28年)

- | | | |
|-----|--------------|-------------|
| 月 | テーマ | 講師・司会者(敬称略) |
| 3月 | 年祭が済んだら次へ進もう | 上原繁道・森本忠善 |
| 4月 | 身近なひのきしん | 笹尾一美・門脇加津 |
| 6月 | こどもおちばがえり | 下田誠輝・田中隆之 |
| 7月 | 子育て | 枝廣隆文・室 悦子 |
| 8月 | 嫁と姑 | 佐藤香苗・武内正美 |
| 9月 | 地域へののをいかけ | 杉原善朗・門脇元教 |
| 12月 | 先人に学ぶ | 武内正美・中島誠治 |



管理部

管理部の活動は、日々の心の掃除と同じで、年祭や定期行事などに関わらず常に行うものです。大教会また詰所へお帰り下さった信者の方々、そして外部からのお客様に恥じないように、設備並びに外回りを整備させて頂き気持ちよく過ごして頂くための陰のつとめが主な役割になっています。

大教会や詰所の規模が大きく皆様一人ひとりのご協力が必要になりますので、今年もどうぞ真実の伏せ込みに皆様方のお心寄せをお願いいたします。

立教179年年間行事予定

- 夏季 草刈り
- 10月 剪定
- 11月 障子張り
- 12月22日 年末大掃除

婦人会

皆様、旧年中は婦人会活動の上にお力添え頂き、誠にありがとうございました。年祭に向かい、それぞれにできるおたすけの実践、特に婦人会では「あらゆる育て」に心を配ろうとつとめてまいりました。

年祭後の活動は、成人目標『ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう』を婦人会員生涯の成人目標と定め、活動方針に『ご恩報じを念じ実のようぼくに育つ 一、教えを学び 身につける 一、身近な人を実のようぼくに育てる 一、百万会員を目標してにいがけ・おたすけに励む』と掲げて頂きました。

年祭にむかって培った力を常時に戻つてもそのままに通らせて頂く、五分五分の成人をすすめるお互いは、少しでも前に進ませて頂くことを忘れず、『ご恩』を感じご恩報じさせて頂くことを一人一人の心の中に置いて、『実のようぼく』に育つ努力をすすめていきたいと存じます。実のようぼくに育つために、教えを学び身につけて頂く、教えを実行させて頂きましよう。又、一人の会員が一人の新しい会員を増やせるよう、特に女性へのにいがけ・おたすけに励ませて頂きつとめていきたいと存じます。台のつとめを自負する女性を増やせるよう、新しいスタートをさせて頂きたいと存じます。どうぞ本年もよろしくお願ひ申し上げます。

婦人会 笠岡支部 上原きよ花

青年会

昨年は、青年会活動の上に多大なるお力添えを頂きまして、誠に有り難うございました。本年も尚一層のお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

◆本年の分会活動

- ・ひのきしん団参……………5月29日
- ・おやさとふしん青年会ひのきしん隊……………6月1日～24日
- ・あらかと通りよう入門塾……………8月15・16日
- ・全分会布教推進週間……………8月28日～9月4日
- ・第92回天理教青年会総会……………10月27日
- ・青年会笠岡分会総会……………12月4日
- ・有志ひのきしん隊……………毎月(随時)

少年会

天理教少年会は、本年、創立50周年を迎えます。

陽気ぐらしの教えを広く長く、後世へ伝えるべく、横の布教と合わせ、親から子へ信仰の喜びを伝える縦の伝道の重要性を説かれた二代真柱様は、昭和41年、天理教少年会を発足されました。

節目の年に当たり、改めて縦の伝道の意識を高めて、様々な活動に取り組みさせて頂きたいと思ひます。本年も少年会活動の上にご尽力の程、よろしくお願ひします。

立教179年笠岡団年間行事

- ・おつとめ総会……………4月1日
- ・鼓笛合宿……………3月30日～4月1日
- ・縦の伝道講習会……………5月21日
- ・サマーキャンプ……………8月22日～24日
- ・テッチャンシアター……………2月・3月・5月・7月・8月の大教会月次祭後



学生担当委員会

学生会年間行事

☆教祖130年祭春の学生おぢばがえり大会

式典 立教179年3月28日 10:00〜

本部中庭

・笠岡大教会として、「学生おぢばがえりの日」と定めて下さっております。

・一人でも多くの学生にお声掛け下さい。

趣旨

道につながる学生が、教祖130年祭に向けて実践してきた「おたすけ」の勢いをもって一人の仲間とともにおぢばに帰り集う。そして、学生にくださる真柱様のお言葉を心に治め、一人ひとりが信仰の拠点である教会につながり、道の次代を担うようぼくへと成人することを決意する

スローガン

「次代を担うようぼくへ」

☆おぢば管内学生の集い

4月24日(日)

・おぢば管内の学生同士の親睦と新入生歓迎会

☆学生層育成者講習会 2月21日(日)

☆学生生徒修養会

大学の部

3月3〜9日

高校卒業生コース 3月6〜8日

(今年の分は、昨年12月時点で定員一杯となり申込が締め切られました)

高校の部

8月9〜15日

雅鶯会

雅鶯会では、各教会での月次祭で雅楽を奉仕する人を養成するための「勉強会」と雅楽奉仕者の「講習会」を開催する予定です。また、教会の祭典に雅楽のBGMを流しませんか。平調の雅楽CDを進呈いたします、お役立てください。

平成28年行事予定

・雅楽勉強会 3月6日(日) 対象は少年会員、大人(初心者、初級者、中級者) 於:大教会

・雅楽講習会 6月5日(日)・6日(月) 対象は雅鶯会員と上級者 於:高屋分教会

・雅楽講習会 12月3日(土)・4日(日) 対象は雅鶯会員於:本部音研

よふぼく勉強会開催

テーマは「教祖百三十年祭 おぢばがえり」

12月月次祭後

育成部

育成部(吉岡壽部長)では12月21日、大教会月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催、約20人が参加した。講師の佐藤道孝先生は、自らの豊富な体験を通して目前の教祖百三十年祭おぢばがえりについて懇切に話された。その中で「感動のおたすけ」を願って自転車帰参を行ったこと、先人の先生方が人のたすかりを願っての帰参、ご守護戴いた御礼の帰参など、数々の心むむ話しをされ参加者を励まされた。



帰参によるおたすけの数々

大教会年末大掃除

12.22

管理部(武内清明部長)では、12月22日、午前9時より大教会年末大掃除を行った。大教会長様の三殿礼拝後、武内部長から掃除手順の説明があった。作業は、例年同様、役員先生方を中心に神床から参拝場へと手際よく進められた。神殿の中段、参拝場ではバタ板をレールにビデを3段に組み作業し、高い欄間などは二連梯子を使い、切れた蛍光灯の取り換えも行われた。婦人会は神殿周りの窓拭きをはじめ信者



一手一つにひのきしん

ふくやま子ども「生きる」美術展で 最優秀の「大賞・ふくやま美術館賞」受賞

— 香地華分・武内いづみさん —

福山市立山野小学校4年生の武内いづみさん(10歳・香地華分教会長、武内清和さんの長女)は昨年12月10日に発表された「第7回ふくやま子ども『生きる』美術展」(ふくやま美術館、福山市教育委員会主催)で最優秀の「大賞・ふくやま美術館賞」を受賞した。武内さんの作品は「やまびこ太こ」。

小中学生を対象に「生きる」をテーマに、子どもたちに絵画制作を通して「生きる力」を備えた人間に成長してもらいたいと、絵画と作文のセットで公募し、審査された。福山、尾道、府中市などの小中学校と美術教室の計55団体と個人から4,061点の応募があった。



最優秀の「大賞・ふくやま美術館賞」を受賞した武内いづみさんの「やまびこ太こ」

— 1月5日、同館で撮影 —

武内さんは昨年、10月18日に地元、山野町で行われた「水車と語り^{かた}ん祭」の行事に参加した時の太鼓を叩く自分の姿を絵にし、作文では「自分のたてた目標を達成できた時、最高にうれしく感じます。みんなで力を合わせてできると、もっとうれしく感じます」などと書いた。

審査では「外にはみ出すほどの大胆なクローズアップでその姿をとらえ、迫力ある画面をつくりました。水色の服と桃色の背景との対比も美しく、細やかな筆致も巧みでした。作文からも、学区の伝統行事にとりくむ緊張感や達成感が伝わってきました。自己を素直に見つめ、その成長のよい記録になっている点が『生きる』展にふさわしい」と高く評価された。

武内さんは製作について「口の開け方も大きくし、肌、服、後ろの色もそれぞれ変えて、頑張っている姿を表わすのが難しかった。自分ではあまり上手に出来たとは思わなかったが、賞はとりたいたなあと考えた。作文は、一生懸命練習して出来たうれしさを書いた」と話す。

将来の夢は「内緒だけれど、絵を描く仕事をしたいんだけどお父さん、お母さんが悲しむと思うので、やっぱりお父さんやお母さんのように神様に喜んでもらえる神様のことをしたい」と白い歯と舌をぺろっと出して微笑んだ。

同美術館(福山市西町)では武内さん以外の大賞、優秀賞、奨励賞の計302点の作品を1月2日から11日まで展示。美術展の案内ポスターには武内さんの「やまびこ太こ」が“備後の一等賞!”のネームと共に使用された。

※武内さんの作文

「やまびこ太こ」

暑くなりはじめたころから、太この練習がはじまります。私の学校では、子どもの人数が少ないため、小学一年生から中学三年生までの全員で、太この発表をいっしょにします。

太この練習は、はじめは小学生と中学生にわかれて、それぞれで練習します。あるていどできるようになってから、合同で練習します。私は、太この先生を目の前にして、とてもきんちょうしました。まちがえたらどうしようかと、とても不安になりました。ドキドキしていましたが、おもいきって力をこめてたたきました。上手にたたけた時、とてもうれしかったです。ゆう気を出してたたけてよかったと思いました。

自分の毎回たてた目標を達成できた時、最高にうれしく感じます。みんなで力をあわせてできると、もっとうれしく感じます。そんな時、私は生きているなと思います。

教会別人づくり一覧表 (立教178年1月1日より 立教178年12月31日まで)

名称	初席	授訓	三日講習	修養科	教人格講習	教人登録	会長資格検定	名称	初席	授訓	三日講習	修養科	教人格講習	教人登録	会長資格検定	名称	初席	授訓	三日講習	修養科	教人格講習	教人登録	会長資格検定
笠岡	6	4					1	福春	1							新輝							
福山	16	2						福中								豊山	4						
高屋		1	1	1				富土	1	1						田川							
神邊		1						福東		1					1	山山	1						
島根	1	1	1		1	1		福南								ノ川	1						
久松		1			1			福南								多浦	1	1		2			
鶴山		1			1	1	1	福順	1							瑞北	2	1		1	1		
弥高	1	3						福備								雲東	2			1			
陽備	1							福輝				1				神村	5						
摩耶								福生	2							呉江	1	1				2	1
金興	1	3						坪生					1			大橋	1	1		1		2	
ひろさと								八尋				1	1			品治	1	1		1		1	
陶山	1							深安								久福	1						
芳井	1							笠安	3				2			久津	1						
呉照								芦那	2							呉福							
海松ヶ岡	5							安川								鶴南							
東悠	5	2						田郡		1						鶴眞	1			1			
吸江		1						三常	1							川島	1	1					
照陽	2	1						芦茂	2							鴨方	1						
輝美	1			2		1		加陽	1							作輝	1						
新山								恵野								錦ケ	4						
明石		1						地華								行藤							
上府	2	2		1				香真	2	1		1				眞府	2	1					
中城								仲倉	1	1		2				吉舎							
東服								稻瀨	22	3		6				清上							
島部	1							稻富	1							小嶽	1				1	2	
油木								稻讚	1							津和	2	1					
葦湯	1	1						司港	1							上野	1			2			
湯田	2	1						門山	1	1						上備	1						
備中								大島	1							河佐	1	1					
神之郷	1				1	1		高丸	2						川邊	1							
美備								出雲	2	1	1				上井	1			2				
錦笠								潮川	1						木行	1							
廣町	2		1					海洋	1				1		阿戸								
福福								錦府	1				1		宇面								
福福	1			1		1		弓濱	1						河世								
福福	3	2						西伯	1						府原								
西岩		1						米美	1						神驛							1	
福西								米仙	1						神免								
福引	1	1			1	1		照都	1						葦合	1	1						
福福								樺島								計計	142	51	6	27	11	11	2

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心によります自由の御守護と身上事情を通しての陽気ぐらしへのお導きによりまして 日々は結構に恙なく生活させて頂く中に今年も早あと十日を残すのみとなりました 思い返せば今年も教祖百三十年祭に向けて三年千日と仕切つての年祭活動仕上げの年として 各教会の心定めを受け一人ひとりが心を定め一人でも多くの人をおぢばに連れ帰るべく自分しか出来ないにをいかけおたすけに励み成人の歩みを進めてまいりました お陰によりましてかんろだいが据え替えられたばかりの十月二十五日の芦津眞明組合同での別席ひのきしん団参には千三百人も帰参者を御守護頂く事が出来ました 誠に有難く勿体ない限りでございます 本日は年の瀬の御祭日に当たりますので 只今からおつとめ奉仕人一同 一年分の喜び感謝の心一杯に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを つとめて本年納めの月次祭を執り行わせて頂きます 御前には折からの厳しい寒さも厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 持ち寄りしました八万二千八百七十一枚のおたすけお願いかードに日頃の御高恩の御礼と共に尚一層のたすけ心を込めて相共にお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいませ ようお願い申し上げます。

さて年末年始といえども身上・事情で苦しむ人心の闇路を彷徨っている人がその苦しみから解放されるわけではありませぬので「陽気ぐらし建設のよふぼく」との自覚の元常にたすけ心を持って一年を締めくくりたいと存じます 又いよいよ年が明ければ教祖百三十年祭でございます 年祭を迎えるその日まで一人でも多くの人をおぢばに連れ帰るべく一人ひとりの真実を尽くし切りたくいと存じます 加えて年祭は一つの節目であり通過点でございますので 来年一年は年祭の年として新しい人をおぢばに連れ帰るべくにをいかけおたすけにと励ませて頂く所存でございます 加えて二十五年先の定命を縮めてまでお急ぎ込み下さいました おつとめの充実とおさづけの取次にも力を注いで行く所存でございます

何卒親神様には 年祭の旬を活かしてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも更なる自由の御守護を賜り「世界一列たすけたい」との親心に浴し 共にたすけ一条に邁進する人が弥増して喜び感謝の心に満ち溢れた年末年始と教祖にお喜び頂ける年祭を迎えさせて頂きますよう御守護お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

第899期修養科募集要項

*修養科期間

立教179年3月1日～5月27日

*教 養 掛

3ヶ月間	中 島 誠 治	(大教会役員・鶴山分教会長)
1ヶ月目	丸 山 正 人	(木津和分教会長)
2ヶ月目	福 島 大 介	(福満分教会長)
3ヶ月目	高 橋 徳 行	(亀田山分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日午前10時に解散。

大教会だより

◎立教179年春季大祭参拝

上	明	皆	新	輝	照	吸	東	海	呉	芳	陶	ひ	興	金	摩	陽	弥	鶴	久	島	神	高	福	
下	石	部	山	美	陽	江	悠	松	照	井	山	ろ	明	浦	耶	備	高	山	山	松	根	邊	屋	山
大	大	中	大	上	中	中	上	大	中	大	中	佐	中	谷	大	大	吉	佐	中	大	中	佐	吉	
教	教	島	教	原	村	村	原	教	村	教	村	藤	村	内	教	教	岡	藤	村	教	島	藤	岡	
会	会	誠	会	繁	邦	邦	繁	会	邦	会	村	道	内	会	会	岡	道	道	村	会	誠	道	岡	
奥	奥	誠	長	道	義	義	道	長	義	長	剛	孝	伸	長	奥	奥	壽	孝	邦	奥	誠	道	岡	
様	様	治	様	剛	義	義	道	様	義	様	剛	剛	自	様	様	壽	孝	義	義	治	孝	壽	壽	

一昨年8月、私は天理教災害救援ひのきしん隊で、広島市安佐南区の土砂災害現場にて、流れ込んだ土砂の除去



小池 栄姉
久津分教会長夫人
十二月二十日出直されました。
享年 九十才

計報

府中市 吉岡 壽
東城 上原 繁道
服部 大教会長 様
島中 吉岡 壽
驛家 中村 邦義
油木 中島 誠治
葦陽 中村 剛
湯田原 谷内 伸自
備中 上原 繁道
神昭 大教会 奥様
美之郷 佐藤 道孝
錦備 吉岡 壽
笠晴 上原 繁道

や、土のう積みなどの復興作業をしてきた。ちょうどその日は、被災住民の一時帰宅が許されたこともあって、被災した自宅の片付けや必要な物品を取りにくる住民の姿が見られた。

その住民の中に、ある老夫婦がおり、避難場所が必要な物を取りに来られたようだった。大きなダンボール箱をいくつか運ぼうとしている様子だったが、高齢のためか足どりは安定せず、フラフラとしていた。また、その団地は、狭い坂道の上であり危険な箇所もあったので、私と何名かでその荷物を、団地下の駐車場まで運ばせて頂いた。荷物を車に乗せ終えると、奥さんが、「ありがとうございます。これで今日からお茶碗でご飯が食べられます。これまでは紙コップでご飯を食べていたので・・・」と、やや目頭を熱くさせながら、お礼を言ってくれました。

私は、荷物の中身が何かを知らなかったもので、意外なお礼の言葉に少し驚いた。と同時に、「自分の家で家族と共にお茶碗でご飯を食べられることに普段から感謝をしていたか？」と振り返ると、それは「当たり前」だと思っていた事に気づいた。また、例えば衣食住に不自由しなくとも、枕元に食べ物を山ほど積んでも、食べるに食べられず水も喉を越さないと思っている人がいる事を考えた時、「いつもの様にご飯を食べる、食べられる」という行為が、どれだけ有難いかという事をしみじみと感じた。

私たちの暮らしは、昔に比べ便利に豊かになったが、いつの間にか「そんなのは当たり前だ」という事が増えてきているのではないかと思う。失ってからその有難さに気づく事があるが、やはり日頃から与わっている物や環境、そして神様からの借り物である身体に対して、感謝の心を持つ事、これがこそが信仰の根底であると改めて感じた。

年祭活動は終わったが、日常の「当たり前前」だと思ふ事に対して、「有り難い」と感謝の心を持つ事を、コツコツと一人でも多くの人に伝え、「感謝・慎み・たすけあい」のにおいが漂う地域、日本、世界に変えていきたいと思う。

私は、あの日、被災地での活動を終え、老夫婦が茶碗につがれたご飯を美味しそうに食べる姿を思い浮かべながら、夕焼けの広島を後にした。(う)

昭和52年 (1977年)	立教140年	昭和52年 (1977年)	立教140年
5 . 26	5 . 26	4 . 26	3 . 23
神邊分教会附属建物増築	亀田山分教会附属建物増築	照陽分教会模様替	教会長配偶者対象に布教実修会開催 (二四日まで 四九人)
5 . 26	5 . 26	4 . 26	4 . 26
就任奉告祭：六月十二日	就任奉告祭：六月十九日	出雲分教会六代会長高島京子任命 (五代会長高島國雄 昭和五十二年三月四日出直)	就任奉告祭：五月十日
5 . 26	5 . 26	4 . 28	5 . 20
西村分教会五代会長藤本英治任命 (四代会会長藤本キヨミ辞任)	福勇分教会三代会長島井久昭任命 (二代会長島井フユノ辞任)	教会長配偶者対象に布教実修会開催 (二九日まで)	真柱様 久松分教会に御巡教
5 . 26	5 . 26	5 . 20	5 . 28
鎮座祭：昭和五十四年十一月九日	奉告祭：昭和五十四年十一月十日	聖連分教会神殿建築	鎮座祭：昭和五十四年十一月九日
5 . 26	5 . 26	5 . 20	5 . 28
5 . 26	5 . 26	5 . 20	5 . 28
副委員長 岸本敏明 武内清	会計担当 岡本久則 高田通昭	記録担当 今川昌夫 吉岡壽	委員 田中一之 門脇誠教 杉原正夫
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	かさおか編纂掛 主任・上原繁道 内海柱 岡崎和夫	楠導掛 主任・谷内信美 次長・岡崎輝夫 藤井憲男 淺野和芳 高田通昭 虫明昌平 田中一	之門脇誠教 岡崎真琴 今川昌弘 岡本久善 佐藤道孝 杉原正夫 河原節喜 中村英夫
輸送掛 主任・虫明昌平 次長・岡本久善 三島克巳 吉岡壽 森本忠平 岡本豊明 三阪道	諸会議	理事会 岡本久則	世話人会 藤井憲男
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	役員直屬教会長布教所長会議 武内清	直屬教会会長 岡崎真琴	大教会史編纂委員会 岸本敏明
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	大教会史編纂委員会 岸本敏明	大教会史編纂委員会 岸本敏明	話所運営委員会 今川昌夫
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	話所運営委員会 今川昌夫	話所運営委員会 今川昌夫	婦人会 支部長・上原せい子
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	婦人会 支部長・上原せい子	婦人会 支部長・上原せい子	青年会 委員長・佐藤道孝
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	青年会 委員長・佐藤道孝	青年会 委員長・佐藤道孝	少年会 団長・吉岡壽
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	少年会 団長・吉岡壽	少年会 団長・吉岡壽	母屋ふしん常任委員任命
輝 掛谷和由 藤本章 佐藤王計 豊田道人 三島陽祐 高橋久光 下田輝夫	母屋ふしん常任委員任命	母屋ふしん常任委員任命	3 . 21